

三井住友建設株式会社 2025年3月期 決算説明会
主な質疑応答

決算概要について

- Q 今期の業績予想は非公表だが、国内大型建築工事の進捗や今後のシナジー効果の発現も期待される中、2026年3月期以降の建築の利益回復についてどう見ておけばよいか。受注時採算の状況とあわせて、考え方を確認したい。
- A 国内大型建築工事を除いた建築の利益率は、2023年度の3.8%から、2024年度には7.2%まで改善しており、着実に回復が進んでいます。また、現在の受注時利益率は10%以上を確保しており、今後も同様の採算性を確保することで、今後の採算はさらに改善していくものと考えています。
- Q 最終的な利益率水準が10%台に回復する可能性もあるかと思う。その場合、どの程度の時間軸での回復を想定しているか。
- A 今回の経営統合を前提としない試算では、本格的な回復は2026年度以降になると予想しています。今後の受注案件の内容や採算に左右されるため、確実な時期は申し上げられませんが、目標としてはしっかり意識して取り組んでまいります。

インフロニア・ホールディングスとの経営統合について

- Q インフロニア・ホールディングスとの統合に関して、いくつかシナジー効果について説明があったが、特にどの分野で最も効果が具現化されると考えているか。また、業績面でのアップサイドポテンシャルとして、どこに注目すればよいか。
- A 今回の統合において最も重要なポイントは、両社の得意分野の補完性の高さです。具体的には、土木分野では当社がPC橋梁や大規模更新に強みを持ち、前田建設工業はダム・電力・防衛関連に強みがあります。建築分野では、一般建築の顧客層が重複しておらず、競合リスクは低いと見ています。超高層住宅については両社とも得意分野であり、再開発需要の高まりを背景に、協業によるシェア拡大が期待されます。また、海外展開では、当社がODAや東南アジアでの実績を持っており、今後はPPPやPFI、コンセッション事業など新たな領域への展開も視野に入れています。これらを通じて、統合による大きなシナジーが得られると考えています。

以 上